

司法省日誌

十七

明治八年十月



日本史籍協會編

司法省日誌

明治初期各省日誌集成

十七

明治八年十月～十二月

東京大学出版会

司^し法^{ほう}省^{しょう}日^{にっ}誌^し十七

明治初期各省日誌集成 第一期

昭和六十一年一月十四日覆刻

編者 日本史籍協會

代表者 森谷秀亮

東京都三鷹市大沢二丁目十五番十六号

発行者 財団法人 東京大学出版会

代表者 田中英夫

一一三 東京都文京区本郷七丁目三番一号
振替東京六一五九九六四

電話(八一)八八一四

印刷・株式会社 平文社

本文用紙・王子製紙株式会社

クロス・望月株式会社

製函・株式会社 光陽紙器製作所

製本・矢嶋製本株式会社

39176

ISBN 4-13-093917-3

資料は国立公文書館所蔵本による。

日本史籍協會編

司法省日誌

全三〇卷

A 5 判

平均四六〇頁

各価六〇〇〇円

明治初期各省日誌集成第一期

卷	年	代	刊行月	卷	年	代	刊行月
1	明治六年一・二月	58年	9月	11	明治七年二月	59年	7月
2	明治六年七・八月	10月		12	明治七年三月	8月	
3	明治六年八・九月	11月		13	明治七年索引	9月	
4	明治七年一月	12月		14	明治八年一月	10月	
5	明治七年二月	59年	1月	15	明治八年二・三月	11月	
6	明治七年三・四月	2月		16	明治八年四・九月	12月	
7	明治七年五月	3月		17	明治八年〇・三月	60年	1月
8	明治七年六月	4月		18	明治九年一・二月	2月	
9	明治七年七・八月	5月		19	明治九年三月	3月	
10	明治七年九・〇月	6月		20	明治九年四・五月	4月	

司法省日誌

十七 目次

明治八年十月

- 第八十一號 (十月八日)
- 第八十二號 (十月八日)
- 第八十三號 (十月八日)
- 第八十四號 (十月十五日)
- 第八十五號 (十月二十日)
- 第八十六號 (十月二十二日)
- 第八十七號 (十月二十四日)
- 第八十八號 (十月二十七日)

一
二
四
六
八
一〇
一二
一四

明治八年十一月

- 第八十九號 (十一月五日)
- 第九十號 (十一月十日)
- 第九十一號 (十一月十四日)
- 第九十二號 (十一月二十四日)
- 第九十三號 (十一月二十八日)

一六
一八
二〇
二二
二四

明治八年十二月

- 第九十四號 (十二月四日)
- 第九十五號 (十二月五日)
- 第九十六號 (十二月九日)

二六
二八
三〇

- 第九十七號 (十二月十二日)
- 第九十八號 (十二月十四日)
- 第九十九號 (十二月十七日)
- 第一百號 (十二月十七日)
- 第一百一號 (十二月十九日)
- 第一百二號 (十二月二十二日)
- 第一百三號 (十二月二十五日)
- 第一百四號 (十二月二十八日)

三一
三四
三六
三八
四〇
四二
四四
四六

司法省日誌明治八年第八十一號

○十月八日

〔小田縣伺〕
八年四月十七日

昨七年太政官第百四號御布告地所賣買致候節代金受取
ノ證文有之トモ若シ地券申受スシテ後日發覺スル時ハ
罰金トシテ証印税一倍ヲ科スヘシト有之有ハ賣主ヨリ
罰金ヲ科スヘキ儀ニ候哉或ハ買主ヨリ可徴哉難決ニ付
此段相伺候也

指令

買主ヨリ罰金ヲ徴スヘシ

〔大坂府伺〕
八年四月三十日

懲役人監獄罰則ヲ犯シニ罪俱發ノ節度毎ニ罰シ候テ可
然哉

懲役人罰條第一則三則四則ニ處シ候節佇立難致或ハ鍔
丸等掌上ニ置或ハ兩石兩水桶ヲ荷候儀力堪ユルヲ能ハ
サル旨申立於醫案確實ナル者又ハ確實ナラサル者如何
處分シ可然哉相伺候也

指令

第一條 伺ノ通

第二條 醫案確實ナレハ第五則ニ依テ處シ確實ナラサ
ル者ハ常則ニ從ヒ輕重其宜ヲ得ヘシ

（白川縣伺）八年五月五日

本年第三十一號ヲ以等外吏ニ準スル者犯罪條例公布有之凡等外吏ニ準スル者戸長ヲ除クノ外罪ヲ犯スニ俸給等外四等ノ金額ニ及ハサル者及口日雇ノ者ハ並ニ本籍ヲ以テ論スト是レ此條例ノ由テ起ルモノハ專ラ俸給ノ多寡ヲ以テ其輕重ヲ分別シ特ニ正副戸長ノミ俸給ノ多寡ヲ論セサルハ蓋曾テ其任四民ノ上ニ位シ鬪毆罵詈等加等ノ例ニ關涉スルノ故ナル乎然ルニ當縣邏卒ノ儀ハ一般俸給等外四等ニ及ハサル者ニ付右條例ニ依リ各其本籍ヲ以テ處分致スヘキハ勿論ノ處邏卒ハ素ヨリ人民保護ノ職ニシテ其鬪毆罵詈等加等ノ例ニ於テモ戸長ヲ毆罵スルニ又一等ヲ加フルノ役權ヲ有ス然ルチ戸長ノ

下ニ置キ其刑ヲ輕クスルハ律例上ノ齟齬ヲ生スルノ
ミナラス自然平素ノ抑揚ニモ差響キ候條若シ公私罪ヲ
犯スニアレハ仍ホ等外吏一般ノ處分ニ及ヒ度此段相伺
候也

指令

本年第三十一號布告ノ通處分ニ及フヘシ

〔福島縣伺〕 八年五月十日

舊惡減免例ニ凡犯罪年ヲ歴テ發覺スル者ハ並ニ舊惡ヲ
以テ論シ云々有之候其發覺ト稱スルハ官其所犯ヲ覺知
スル日ト相心得是迄處斷致シ來候處昨明治七年十一月
中相伺候間毆殺人岩代國安達郡苗代田村佐藤勘之丞儀

懲役三年相當ノ處五箇年餘ヲ經テ發覺スルヲ以テ舊惡
減免例ニ照シ免罪トノ御指令ニ依リ即時決放候處該犯
ノ根元初四郎ヲ毆殺スルハ明治元年八月八日而テ官其
所犯ヲ覺知捕縛候ハ同七年三月九日ニ之アリ右捕獲ノ
月日ヨリ所犯ノ月日マテ遡リ算スレハ四年八月ト一
日（御省日誌明治七年第百十二號埼玉裁判所伺御指令
ニ依リ新舊曆ノ日月差アルニ拘ハラヌ且閏月ハ一年内
ニ算入ス）ニ相成口供甘結（明治七年十一月十三日）
マテ計算スレハ五年以上ニ相成候ニ付甘結ノ日ヲ以
テ發覺ト相心得可然哉此段奉伺候也

指令

明治元年八月罪ヲ犯シ同七年三月覺知スル時ハ五年餘
ヲ經テ發覺スル者ナリ口供甘結ニ至ルノ日ヲ計ヘ五箇
年餘トナスニ非ス

〔山形縣伺〕

八年五月
十五日

證券印稅規則第一類預金證書ハ金高拾圓以上ハ總テ一
錢ノ印稅拾圓未滿ハ界紙ヲ用ユヘキ云々第二類預金證
書使用ヲ爲サルノ明文無之ハ金高拾圓未滿ハ界紙十圓
以上ハ金高ニ應レ印稅增加可致ト有之處預米預雜穀證
書印稅ノ儀不相見右ハ前條預金證書ニ準レ幾許ノ高ニ
至ルニ一錢ノ印稅又使用ヲ爲サルノ明文無之ハ米高
五石未滿雜穀高十石未滿ハ界紙米高五石以上雜穀十石

以上ハ其高ニ應レ印税増加可致儀ニテ右ニ背キ界紙印
紙ヲ貼用セサル者ハ脱税高ノ貳拾倍其證書ヲ受取タル
者ハ脱税高拾倍ノ過料申付候儀ト相心得可然哉此段奉
伺候以上

指令

本年第二百二十六號布告ノ通相心得ヘレ

〔白川縣伺〕八年五月
十二日

綱領賊盜律盜官私牛馬條民間ノ牛馬ヲ盜ム者ハ厥闌牧
場ヲ分ダス竊盜ニ準レテ論シ罪懲役十年ニ止ル是準盜
罪ト雖モ再三犯スレハ竊盜ト同ク犯數ニ計ヘ其罪ヲ科
ス然ル處律例御頒布後準盜罪ハ犯數ニ計ヘサル例ニ付

牧場ノ牛馬ヲ盜ハ從前（明治六年七月九日以前）ヲ云フ
 一今後（明治六年七月十日以後）ヲ云フ（共犯數ニ計ヘ
 サルハ勿論ナレバ其民間厩欄ノ牛馬ヲ盜ム者ハ例第百
 四十條ノ通竊盜ヲ以テ論スヘキ罪ナレハ從前今後ヲ分
 タス竊盜ト同ク犯數ニ數ヘ（綱領ニ準盜トアルモ其準
 ノ一字ニ泥マス）可然哉若シ然ルルハ雇人家長ノ財物
 ヲ盜モ亦綱領ニ於テハ準盜ナレバ例第一百四十三條ニ右
 準盜ヲ改メ常人盜ヲ以テ論スト有之原トヨリ加等罪ナ
 レハ是亦從前今後ヲ分タス竊盜ト同ク犯數ニ計ヘ（譬
 ヘハ明治六年七月九日前家長ノ財物ヲ盜ミ初犯再犯ノ
 裁決ヲ經同年七月十日同罪ヲ犯セハ仍ホ竊盜三犯ヲ以

ヲ論レ五拾圓内外ヲ分テ常人盜三犯ヲ以テ論セス可
然哉相伺候也

指令

改定律例ノ前後ヲ論セス准盜ハ犯數ニ加ヘス

〔山梨縣伺〕

八年五月
二十二日

爰ニ遺失ノ物アリ三十日以内ニ遺失主アリト雖モ其遺
失物ハ他ニ本主アツテ一時寄託ヲ受甲ヨリ乙ヘ送ルヘ
キ物品ニ付拾主ヘ給スル一半ノ代價ハ總テ遺失主ヨリ
辨償爲致候儀無論ニ被存候處遺失主於テ辨償スヘキ資
力ナケレハ拾主ヘ給スル代價ハ本主ノ損失ト相心得可
然哉相伺候也

指令

伺ノ通

〔大坂裁判所伺〕

八年五月二十四日

本省日誌七年第七十一號兵庫裁判所伺第三條御指令ニ
逃亡及ヒ舊惡減免ノ如キハ年ヲ以テ算スト有之候因テ
推考致シ候ニ舊惡減免ノ如キハ年ヲ以テ算スル固ヨリ
減免ヲ速ニスルノ主意ニテ寛恤ノ一端ト存シ候ヘ共逃
亡ニ至テ年ヲ以テ算スルハ犯人該年在逃ノ早遲ニ依
テ大ニ幸アリ不幸アリ何トナレハ六年十二月ニ在逃シ
八年一月ニ至テ取縛セラル、者月ヲ以テ算スルハ十
四ヶ月ト雖モ年ヲ以テ算スレハ二年以外也又五年十二

月ニ在逃シ七年十一月ニ至テ取縛セラル、者ハ三年ニ
涉ルト雖モ月ヲ以テ算スレハ二十四ヶ月ニシテ二年以
内ナリ右ノ如ク年ヲ以テ算スルト月ヲ以テ算スルト自
ラ差異ヲ生シ候元來逃亡二年以外ニ及フ者ハ復歸及ヒ
自首スルト雖モ減免ヲ與ヘス贖罪ニ處スル儀ニ候ヘハ
算スルニ年ヲ以テセス月ヲ以テセハ寛ニシテ且稱日者
以二十四時條例ノ意ニモ相協ヒ候哉ト存候ニ付此段相
伺候也

指令

年ヲ以テ算スルトハ改定律第九十一條ヲ見合セ三百六
十五日ト心得ヘシ十四ヶ月ヲ以テ二年以外ト云フヲ得